



## <ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	24件	25,000円	605件	672,827円
財団	0件	0円	24件	286,000円
ベネファクター	0件	0円	2件	200,000円
米山	0件	0円	19件	293,700円

### 本日のプログラム

#### <会員卓話>

井上久会員

入会してすぐに卓話をしました。今回は2回目です。7年後にこういった卓話の機会が回ってきました。前回よりロータリーについても、皆さんについても良くわかっているので緊張しています。

今回は幼稚園についてのお話をしたいと思います。幼稚園の園長というによく「いいですね」と言われます。世間では一日子どもと楽しく過ごして若い先生に囲まれて、と思われているようですが、現実にはそうではありません。幼稚園は学校教育法で定められた学校の最初に挙げられています。保育園は「福祉施設」です。だからこそ、幼稚園は文部科学省から、教育理念に基づいた目標に向けた計画立案や、個別指導等の細やかな教育のための作業が求められます。幼稚園というのは学校中では規模が小さいため、園長というのは用務員、事務、運転手、なんでもやります。

最近、特に学校に対する風当たりが強くなってきています。体罰しかり、いじめしかり。何か問題が起こると教育者がすぐに糾弾される風潮があります。またこれに加えて、近年の子どもの様子にも変化が出てきています。特に、障害の持ったお子さんが大変多くなってきています。今までは「躰の問題」とされていたものが、自閉症・ADHD・アスペルガーなどと診断され問題視されるようになってきました。このような児童は、かつては2%程度、今では5-6%にも増加しているとさえ言われています。川崎市では障害のある児童を積極的に受け入れようと方針があり、全国的にも高い数字になっています。

もう一つ顕著なのが、アレルギーを持ったお子さんが増えていることです。アナフィラキシーショックで最悪の場合死にいたることもあります。原因は不明ですが、私達を取り巻く地球環境の悪化もあるのかもしれない。

先日の川崎市長選挙では3名の候補が共通して子育て支援、特に「待機児童対策」を掲げていました。

待機児童とは認可・無認可に関わらず保育所に入れない子どものことです。川崎市は待機児童がもっとも多いという事実があります。待機児童対策はするべきというのがマスコミを含めた最近の認識です。その対策は保育所を増やすこととなっています。保育所の園児一人当たりには、平均125万円かかっています。それだけ国や市は母親に外で働いてもらう為にお金をかけているともいえます。また最近の保育所では、長時間子どもを預かることが多くなっています。子どもにとって本当に幸せなのでしょうか。長時間の預かりは可哀想だというのが幼稚園経営者の共通見解です。今の待機児童対策は、かわいそうな子ども達を増やそうとしているのです。では、働くお母さんが増えてきた今、どうしたらよいのでしょうか。旭山動物園前園長の小菅さんは「動物界の最大の使命は命の連鎖。つまり子どもを産み育てていくこと。子どもをとるか仕事をとるか、などと比較することは大きな間違いである」と言っていました。また、児童心理学者の佐々木さんは著書の中で「育児の主役はお母さん。母と子は生まれる前からその関係が始まっている。決して交代できるものではない」と述べています。当会の大西会員も「家庭にいる女性は既に全員が働いている」と女性の社会進出について危惧されていました。

小学校に上がるまでの子どもは、せめてお母さんが抱きしめて育ててあげてもらいたいと思います。そのために母親がしっかり家庭で安心して子育てできる環境作りが必要になってくるのです。もちろん保育所本来の機能を否定はしません。母子家庭や病气などといった母親のお子さんには、手厚く対応すべきだと思います。しかし、最近の母親にありがちな「預かってくれるなら、預けようかしら」といった人が待機児童を増加させているのです。そういう人には遠慮していただきたいのが本音です。本当に必要な方に保育所を譲っていただき、お子さんが3歳くらいになったら、集団生活により人間形成の基礎が築かれる「幼稚園」に入れていただきたいと思います。お願いして、本日の卓話とさせていただきます。

